

5月における水稲の病害虫の発生状況は以下のとおりです。
巡回調査(69地点)は、5月15～17日、30日～6月2日に実施。

○ いもち病

・5月30日～6月2日の巡回では、調査69地点のうち1地点において、残苗でのいもち病発病が確認されました(図1)。なお、残苗放置筆率は19.6%でした。

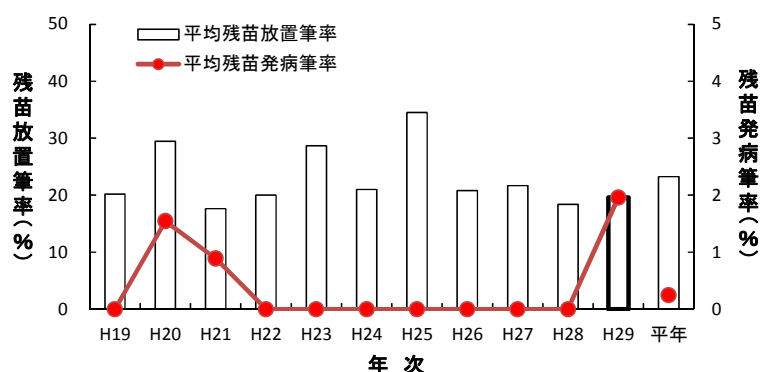


図1 残苗の放置筆率及び発病筆率

○ 黄化萎縮病

・今回の調査では、発生は確認されませんでした。

○ イネヒメハモグリバエ

・5月15～17日の巡回では、被害の発生地点率は4.2%と平年(0.5%)より高い状況でした。

・5月30日～6月2日の巡回では、被害の発生地点率は10.1%と平年(9.2%)並でした(図2)。

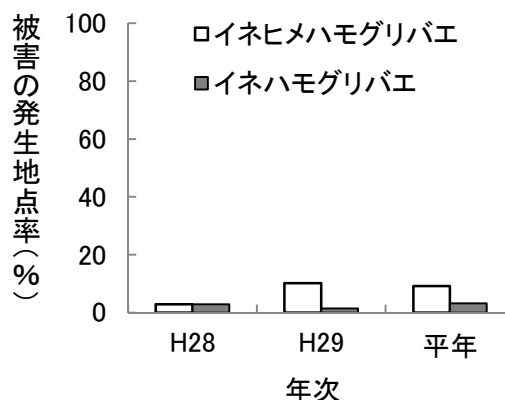


図2 イネヒメハモグリバエ及びイネハモグリバエの被害発生地点率(5/30～6/2)

○ イネハモグリバエ

・5月15～17日の巡回では、発生は確認されませんでした。

・5月30日～6月2日の巡回では、被害の発生地点率は1.4%と平年(3.2%)並でした(図2)。

○ イネドロオウムシ

・5月15～17日の巡回では、発生は確認されませんでした。

・5月30日～6月2日の巡回では、成虫の発生地点率は2.9%と平年(5.8%)よりやや低く、卵塊の発生地点率は2.9%と平年(3.9%)よりやや低い状況でした(図3)。

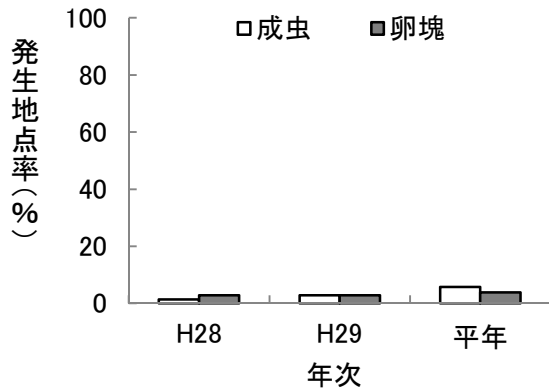


図3 イネドロオイムシ成虫と卵塊の発生地点率(5/30～6/2)

○ イネミズゾウムシ

・5月15～17日の巡回では、成虫の発生地点率は4.2%と平年(9.6%)より低く、被害の発生地点率は2.1%と平年(12.4%)より低く、また、被害度は0.1と平年(0.7)より低い状況でした。

・5月30日～6月2日の巡回では、成虫の発生地点率は17.4%と平年(18.2%)並(図4)、被害の発生地点率は49.3%と平年(51.9%)並、また、被害度は4.2と平年(3.9)並でした(図5)。

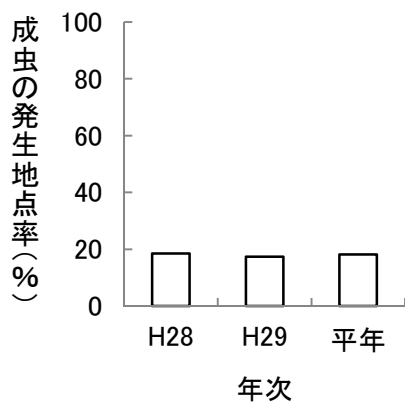


図4 イネミズゾウムシ成虫の発生地点率(5/30～6/2)

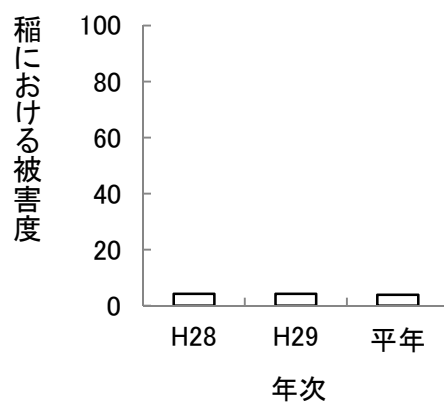


図5 イネミズゾウムシ成虫による被害度(5/30～6/2)

<発生程度別基準>

程度	無	少	中	多	甚
被害度	0	1～20	21～40	41～70	71以上

<イネミズゾウムシ被害度の算出方法>

25株について株ごとの食害程度を調査し、下記の式及び基準によって被害度を算出する。

$$\text{被害度} = \frac{4A+3B+2C+D}{4 \times \text{調査株数}} \times 100$$

4×調査株数

A:被害葉率 91%以上 B:同 61～90% C:同 31～60% D:同 1～30%